

また、同社子会社であるアクセルラボ社によるセキユリテイシステムや空調・設備の遠隔コントロールにより、別荘利用や二拠点生活の住まい

手に安心できる暮らしを提供。アクセルラボのスマートハウスシステムは、平安建材（京都府）の築112年のリノベーション物件でも導入された。

学生コンペへ

学生・建築デザインコンペ 最優秀賞は「街の遊牧民」



候補者（スクリーン内）と審査委員

木造住宅のコンペである「第8回ポラス学生・建築デザインコンペテイション」の二次審査会が、6月23日にリモート形式で開催された。テーマは「リモートスタイルハウス」。賞金総額100万円。5月6日の締め切り（応募作品557点）、一次審査を通過した5組の作品で審査会が開催された。

審査委員長は、西沢立衛氏、審査委員は、今井公太郎氏、原田真宏氏、中川エリカ氏、野村壮一郎氏の5氏。建築分野で著者な4氏のほか、野村氏（ポラス社内審査委員）のように分譲

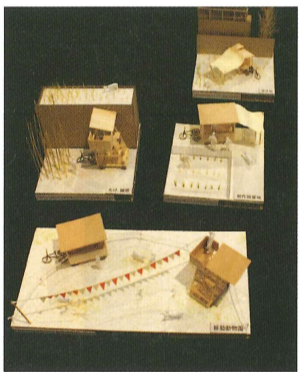
住宅のプロの視点からも評価が行われることに特色がある。

今年のコンペは接戦で、ノミネット5作品のうち、4作品は、それぞれの視点から突出した高い評価となった。

- ① 街の遊牧民
 - ② 小さく囲われ大きく囲む63卓の家
 - ③ 時間×空間×隙間
 - ④ 歩く、暮らす、歩く、はたらく
- 2度の審査員投票の結果、①



最優秀賞「街の遊牧民」



「歩く、暮らす、歩く、はたらく」

の「街の遊牧民」工学院大学大学院 黒田尚幹、除村高弘、工学院大学 遠山亮介、新美志織」が選ばれた。

最優秀賞の「街の遊牧民」は、リモートスタイルを家の中に限定するのではなく、街中を書斎や生活の場として拡張する建築としている。「ノマドシステム」によって、街の隙間でヤギの遊牧を行い、屋根の勾配でヤギの居場所を作ったり、ヤギを移動させるモビリティで街を移動できる等のアイデアが備わっている。審査員からは、敷地の外にも提案があることでの発展性や、実業の面からは、郊外の空き地や生産緑地を使うことは不動産として今後有効である等の高い評価を得た。

なお、1回目の投票で1位となるも2回目投票で惜しくも敗れたのは、④「歩く、暮らす、歩く、はたらく」名古屋工業大学大学院 田上功也、藤田倫也」の両氏。閉じられた空間としての豪快一途で売れるアイデアが高く評価された。また、入選の3作品のうち、③「時間×

空間×隙間」張沢夫 早稲田大学大学院」、②「小さく囲われ大きく囲む63卓の庭」京都工芸繊維大学 守本愛弓」、の2作品は、設計の密度や、生活の実感といったリアリティが傑出した作品として高く評価されたものの、アイデアコンペという趣旨から最高得点を得ることができず入選となった。